

資料 2

第 9 次森町総合計画

(基本計画 答申案)

平成 2 9 年 2 月

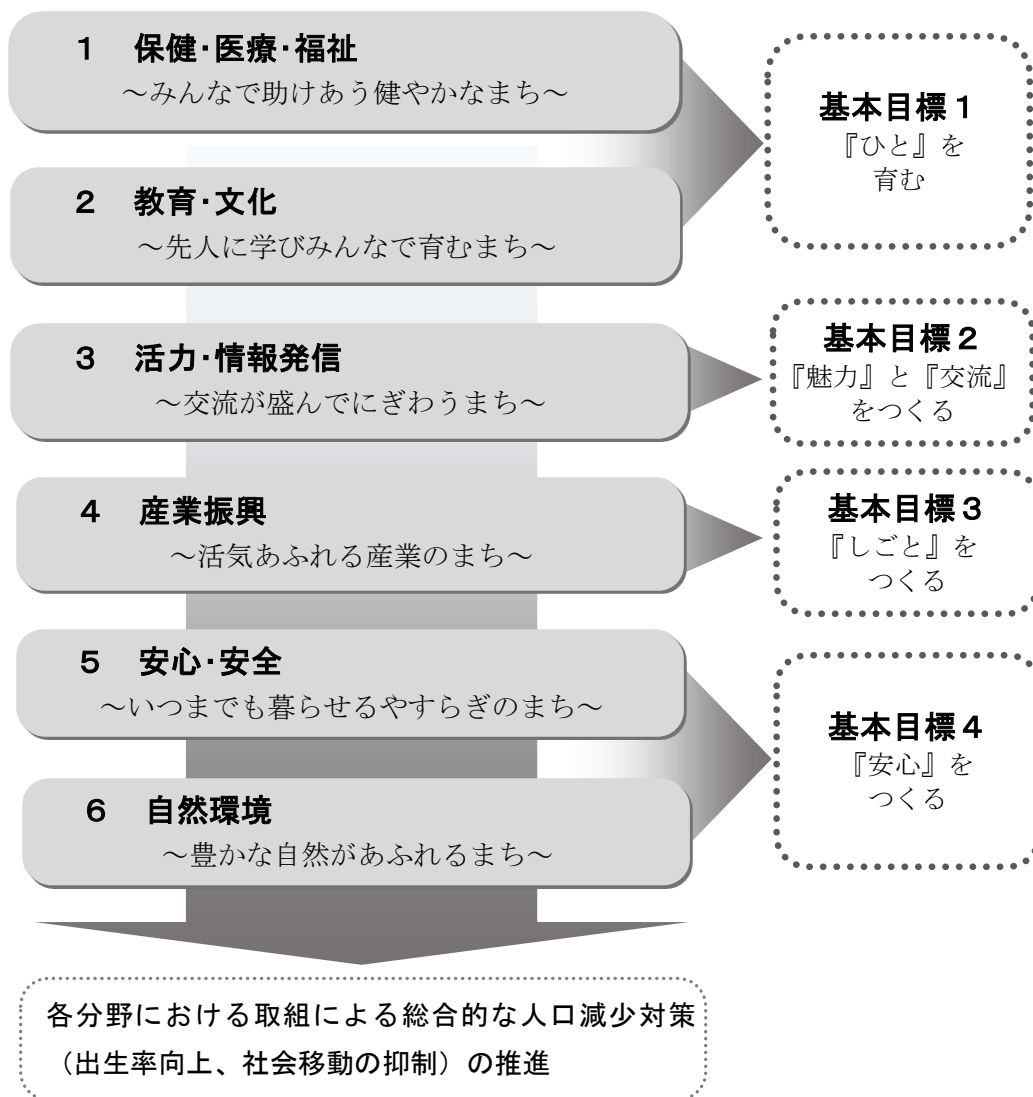
基本計画事項について

基本構想に定めた将来像の実現と、基本構想に基づく施策を戦略的に推進するため、6つの基本の柱ごとに計15の施策の基本方向を設定し、各分野の施策・事業の推進を図ります。

なお、基本計画に示す各施策・事業は、2015（平成27）年度策定の森町人口ビジョン及びまち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標の実現とも連動し、少子高齢・人口減少社会に立ち向かうために一体的な推進を図るものとします。

■基本の柱と総合戦略目標との関係

＜森町総合戦略4つの基本目標＞



■基本計画の体系

将来像	基本の柱	基本方向	施策の方向	計画推進
住 む 人 も 訪 れ る 人 も 「 心 和 ら ぐ 森 町 」	1 保健・医療・福祉 みんなで助けあう健やかなまち	(1)いつまでも「いきいき」過ごせるまちをつくる	①こころと身体の健康づくりの推進 ②地域医療体制の充実	○ 健全な行財政運営の推進 ○ 広域連携・交流の推進 ○ 協働のまちづくりの推進 ○ 情報通信技術（ICT）の活用推進
		(2)「お達者」で暮らせるまちをつくる	①地域福祉社会の形成 ②高齢者福祉の推進 ③障がい者福祉の推進	
		(3)子育て・子育てしやすいまちをつくる	①子育て支援の充実 ②児童福祉の推進	
	2 教育・文化 先人に学びみんなで育むまち	(1)「ひと」と「ひと」が育みあうまちをつくる	①幼児教育・学校教育の充実 ②地域における人づくりの推進	
		(2)歴史に学び多様な文化を継ぐまちをつくる	①文化活動の振興 ②スポーツの振興	
	3 活力・情報発信 交流が盛んでにぎわうまち	(1)調和のとれた居心地のよいまちをつくる	①計画的な土地利用の推進	
		(2)町の魅力や情報を広く効果的に発信するまちをつくる	①情報通信基盤の整備 ②戦略的なPR実施	
		(3)地域の宝・資源を最大限にいかしたまちをつくる	①森町ブランドの育成・発信 ②地域資源をいかした観光の振興	
			③多様な観光形態の創出	
	4 産業振興 活気あふれる産業のまち	(1)活力が持続できるまちをつくる	①農業の振興 ②林業の振興 ③商業の振興	
			④工業の振興	
			①企業の誘致・雇用の確保	
		(2)新たな活力が生まれるまちをつくる		
	5 安心・安全 いつまでも暮らせるやすらぎのまち	(1)安全・快適に暮らせるまちをつくる	①交通安全・防犯対策の充実 ②道路・交通ネットワークの整備 ③生活基盤の整備	
			①地域防災力の強化	
			①コミュニティづくりの推進	
		(2)災害に強い、地域防災力の高いまちをつくる		
		(3)コミュニティ豊かな地域活動が活発なまちをつくる		
	6 自然環境 豊かな自然があふれるまち	(1)緑豊かな自然あふれるまちをつくる	①生活に身近な緑の保全と形成 ②森林の保全 ③河川の整備	
			①資源循環と自然エネルギーの活用 ②環境保全活動の推進	
		(2)自然環境と共存するまちをつくる		

基本の柱 1 保健・医療・福祉

みんなで助けあう健やかなまち

- (1) いつまでも「いきいき」過ごせるまちをつくる..... 5
- (2) 「お達者」で暮らせるまちをつくる..... 7
- (3) 子育て・子育てしやすいまちをつくる 9

1 保健・医療・福祉

(1) いつまでも「いきいき」過ごせるまちをつくる

① 現況・動向

●町人口の高齢化（平成 28 年 4 月現在 30.9%）とともに、死亡者数は年により増減はあるものの増加傾向にあります。特に死亡要因の上位にあたる疾患予防のため、基本健診や各種がん検診を含めた総合検診により、疾病の早期発見・早期治療に引き続き取り組んでいく必要があります。

●疾病予防の観点で、子供から高齢者までの各ライフステージに合わせた健康づくりの推進が求められています。また、健康づくりには町民一人ひとりの主体性が重要であり、町民の健康意識の高揚や、地域での健康づくりの推進が求められます。

●医師・看護師の不足や医療の高度化、救急医療への対応などが求められ、今後も引き続き医師会や周辺公立病院などの関係機関と連携強化を図るとともに、公立森町病院の経営の健全化に努めていく必要があります。

●関連計画

第 2 次森町健康増進計画

森町食育推進計画

森町病院事業新経営改革プラン

～みんなで助けあう健やかなまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) ころと身体健康づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・各種検診の実施と検診後の生活指導や健康相談などにより、疾病の早期発見・早期治療を図ります。 ・正しい食生活の啓発や指導、気軽に参加できる運動の場の提供などを通じ、積極的に生活習慣の改善に取り組み、身体だけでなくこころも健やかに保てるよう、生涯を通じた健康の維持・増進を支援します。 ・町民一人ひとりの健康意識向上を目的に健康づくりの普及・啓発、保健予防活動が展開できるよう、地区毎のリーダーの育成や知識・情報の提供などの支援を行い、地域組織での健康づくりを推進します。 ・妊娠期から子育て期にわたるまでの切れ目のない支援を提供する体制づくりを進めます。 	国民健康保険事業 特定健診・特定保健指導事業 健診・ドック事業 健康講座の開催 健康・医学に関する知識・情報の提供 健診センター機能の検討 総合検診等健康診査事業 乳幼児健康診査等母子保健事業 乳幼児歯科保健事業 各種感染症予防接種事業 生活習慣病予防等成人保健事業 保健委員等の地区組織リーダーの育成 健康マイレージ事業 子育て世代包括支援センター事業 療育事業の推進
2) 地域医療体制の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・訪問診療や訪問看護、入院患者の退院支援などの地域特性に適した医療の提供を進めます。 ・町内診療所や周辺病院などとの連携強化により、地域医療体制の充実を図ります。 ・公立森町病院については、医師や看護師などの確保と人材の育成を図るとともに、町民のための地域医療機関としての役割を踏まえ、将来の経営面、財政面、機能面などを多角的に考慮し、経営改善のための病院経営体制の見直しを検討します。 ・中東遠地域における各医療機関がもっている機能を踏まえながら、役割分担と相互連携を進めることで、救急医療への対応や質の高い医療の提供に努めます。 	関係機関との連携による総合的医療の提供 救急医療体制の充実 医療・介護機能の分担と連携の促進 公立森町病院の経営の健全化 公立森町病院による質の高い安全な医療の提供 森町家庭医療クリニックの安定運営 新経営改革プランの策定

●目標指標	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
国民健康保険被保険者の特定健康診査受診率	%	42.4	60.0	65.0
公立森町病院経常収支比率	%	94.7	100.0	102.0

1 保健・医療・福祉

(2) 「お達者」で暮らせるまちをつくる

① 現況・動向

- 町人口における高齢者数のみならず、高齢者のみの世帯や高齢単身者世帯が増加しており、障がい者や要介護認定者数も増加傾向にあることから、高齢者や障がい者などを地域全体で支え合うしくみづくりが求められています。
- 町民だれもが住み慣れた地域で、自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療や介護サービス、買い物などの生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築が求められています。
- 高齢期にも健康に暮らすことができるよう、介護予防事業の積極的な推進が求められます。
- 障がい者に対する、在宅・施設生活などの支援・相談・指導に取り組むとともに、障がい者の社会参加の促進と自立を支援していくことが求められています。
- 町民・事業者・行政が相互に連携して支え合う社会の形成とともに、社会参加の意欲と能力をもった高齢者が生きがいを感じながら生活できるような社会の実現が求められます。

●関連計画

森町地域福祉計画

高齢者保健福祉計画・第6期介護保険事業計画

森町障害者計画及び障害福祉計画

～みんなで助けあう健やかなまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) 地域福祉社会の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・地域福祉の核となる組織への支援と人材育成、利用者本位の福祉サービスの提供、世代間交流事業の推進、地区社会福祉協議会設立の推進などにより、町民との共通理解に立った地域福祉社会の実現に努めます。 ・買い物弱者対策(特に中山間地域)を進めます。 	地域福祉推進協議会活動事業 地域福祉リーダー・ボランティアの育成 社会福祉協議会との協力・連携の促進 地区社会福祉協議会の設立 生活相談の充実 買い物弱者への支援
2) 高齢者福祉の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険制度の適正かつ効果的な運用とともに、総合的な高齢者の保健・福祉の充実に努めます。 ・地域包括支援センターを拠点として、介護予防による高齢者の自立生活能力の維持向上を図ります。 ・地域行事への参加の促進や介護予防講座の開催、シニアクラブやシルバー人材センターへの支援など、その人のもつ意欲や能力を積極的に活かすことができる活動の機会の提供や仕組みを充実します。 ・高齢者が地域とのつながりや生きがいを持ちながら暮らしていくために、NPO や地域住民をはじめとした多様な主体が実施する生活支援等のサービスの創出を支援します。 	介護保険事業 地域包括支援センター事業 通所型サービス事業 訪問型サービス事業 介護予防事業 認知症総合支援事業 生活支援体制整備事業 在宅医療・介護連携推進事業 地域ケア会議の実施 介護予防地域ボランティア育成事業 養護老人ホーム入所措置事業 各地区主催による敬老会開催 シニアクラブへの支援 シルバー人材センターへの支援 お達者度維持向上事業
3) 障がい者福祉の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント機能の充実に努め、自立支援を推進するとともに、在宅者においては相談、指導、支援などにより一層のケアに努めます。 ・障がいのある人も不自由を感じることなく等しく生活できるような地域づくりを目指します。 ・ユニバーサルデザインに配慮した環境づくりを促します。 	在宅サービスの充実 日常生活への支援 就労支援 施設サービスへの支援 ユニバーサルデザインの推進 防災対策の推進（福祉避難所の指定） 福祉施設における住居の確保支援 （グループホーム）

●目標指標	単位	現状値	目標値	
			5 年後	10 年後
お達者度	年	男 18.33 女 21.88	男 20.0 女 22.5	男 20.0 女 22.5
障がい児発達支援体制の構築（支援センターの整備）	箇所	0	1	1

1 保健・医療・福祉

(3)子育て・子育てしやすいまちをつくる

① 現況・動向

- 森町においても、全国的な傾向と同様に出生数は減少しており、総人口に占める0～14歳の年少人口の割合も低くなっています。
- 社会経済事情や就業構造の変化などにより、子育てを支援する多様なサービスの提供が求められており、保育サービスの充実や子育てにかかる経済的な負担の軽減などが必要となっています。
- 核家族化の進行や地域社会における連帯感の希薄化により、家庭内での養育力の低下や保護者の子育てへの不安、育児に対する負担感の増大などが依然危惧されており、より安心して子育てができる環境を整えていくために、家庭・学校・地域が連携して、子供の成長を見守り、健全に育む地域力の向上が求められています。

●関連計画

森町子ども・子育て支援事業計画
森町地域福祉計画

～みんなで助けあう健やかなまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) 子育て支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育ニーズの多様化に応じた多様な保育サービスの充実を図るとともに、保育施設の整備や保育士の適正配置により、保育園への計画的な園児受入を進めます。 ・ 就学前教育と保育を一体として捉えた支援を充実します。 ・ 育児に関する相談や情報交換、子育ての相互協力を行う子育てサークルの育成・支援を図り、サークル間の相互協力やネットワーク化を推進します。 ・ 子育て支援センターを拠点とし、町内の子育てに関する様々な情報提供・相談のほか、各種講座やイベント開催などを充実します。 ・ 各種手当やこども医療費助成等の充実により、子育て家庭の養育負担の軽減に努めます。 	保育施設の整備 保育料の負担軽減 多様な保育サービスの提供 幼保一元化の検討 幼稚園における預かり保育の実施 放課後児童クラブの充実 児童館の運営 子育て支援センターの運営 事業所等に対し子育てしやすい就業環境の啓発 しずおか子育て優待カード事業 こども医療費助成事業 放課後子ども教室の実施 家庭教育支援員の活用 幼児教育学級の保育園への拡大
2) 児童福祉の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員・児童委員や子育て支援センター、保育園、幼稚園、保健福祉課などによるネットワークを構築し、子育て家庭のそれぞれの状況に応じた的確な支援を行います。 	児童や乳幼児への支援事業の推進 ひとり親家庭支援事業 児童虐待等防止対策事業

●目標指標	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
児童館の利用者数	人	27,618	28,000	28,500
ファミリーサポートセンター登録者数	人	依頼会員 32 人 協力会員 31 人 両方会員 14 人	依頼会員 35 人 協力会員 35 人 両方会員 20 人	依頼会員 40 人 協力会員 40 人 両方会員 25 人

基本の柱2 教育・文化

先人に学びみんなで育むまち

- (1) 「ひと」と「ひと」が育みあうまちをつくる..... 13
- (2) 歴史に学び多様な文化を継ぐまちをつくる..... 15

2 教育・文化

(1) 「ひと」と「ひと」が育みあうまちをつくる

① 現況・動向

- 幼保の連携強化を図り、小学校への接続をスムーズにするとともに、子ども・子育て新制度に沿った幼保一体化の検討など、新しい時代に合った幼児教育が求められています。
- 少子高齢、人口減少社会の到来により、森町でも児童・生徒数が減少しています。このため、学校規模の適正化や地域の実情に合わせた学校教育のあり方を検討する必要があります。
- 社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」を育むとともに、自らを律しつつ他人を思いやる心など、豊かな人間性の向上が一層求められています。
- いじめや不登校、発達障害など、様々な問題で悩む児童・生徒をなくすため、教育相談の実施や指導体制の充実が求められています。
- 学校施設の老朽化が進む中、児童・生徒が安心して学習に集中できる環境整備が必要になっています。
- 地域の力を活用して、社会総がかりで学校を支援したり、人づくりを推進したりするための体制づくりが求められています。
- 生涯を通じた学習ニーズに応えるために、様々な学習の機会を充実させながら、学習内容に関する情報や学習の場の提供を図っていくことが一層大切になってきています。

● 関連計画

森町教育大綱

森町男女共同参画計画

森の教育

森町子ども読書推進計画(第3次)

～先人に学びみんなで育むまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) 幼児教育・学校教育の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期には、遊びを通して好奇心や探求心を養います。 ・幼・小・中一貫教育の推進により、12年間を見通した学びの充実と、地域の実情に適した特色ある学校(園)教育の実現に努めます。 ・すべての学力の基本となる国語力を大切にしながら、主体的・対話的な深い学びの実現を目指します。 ・国際化・情報化に対応し、国際理解を深める教育やインターネット等を活用した教育を推進します。 ・基本的な生活習慣を身につけるとともに、奉仕活動や体験学習などを通じて、豊かな心や社会の一員としての自覚を育む教育を推進します。 ・個に応じた支援・指導により、きめ細かな教育を行います。 ・児童・生徒数に応じた適正な施設・設備などの検討を行います。 ・学校(園)・家庭・地域が一体となった「地域とともにある学校(園)づくり」を進めます。 	幼小中一貫教育事業 森町の自然・歴史・文化に関する学習活動 英語教育推進事業 情報教育推進事業 特別支援教育の充実及び通級指導教室設置の推進 不登校児の居場所と保護者の相談場所の設置 食育推進事業 北海道森町児童生徒友好親善事業 広島平和記念式典小中学生派遣事業 学校規模適正化に向けた検討 地域とともにある学校(園)づくり推進事業 学校施設整備事業 給食施設整備事業
2) 地域における人づくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・町民ニーズと各ライフステージに応じた生涯学習の機会や学習情報の提供の充実を図り、町民一人ひとりが生涯にわたって学習できる環境づくりを進めます。 ・町民による自主的な講座の運営など町民参加型の生涯学習活動を支援します。 ・地域における幅広い知識・技能を持つ人を発掘し、指導者として登録し、そうした人材の学校や地域における活用を進めます。 ・男女が個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の形成に努めます。 ・町内の高校と行政とが連携して、地域課題等に取り組むことにより、町の活性化及び地域を支える人材の育成に取り組みます。 	図書館の利用促進 子ども読書活動推進計画の推進 子供向け講座の充実 放課後見守り隊活動の支援 社会教育団体への支援 指導者・リーダーの養成 多様な学習機会の提供と学習内容等の充実 学校支援ボランティアの普及・促進 男女共同参画計画の推進 世代を超えた交流活動の支援 キャリア教育の支援

●目標指標	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
学校が楽しいと答える小学生	%	84.9	95.0	100
授業が分かると答える中学生	%	72.7	85.0	90.0
図書館年間来館者数	人	41,000	41,400	41,800
子供一人当たり年間貸出冊数	冊	25	28	31
家庭教育支援員の人数	人	5	8	11
森の夢づくり大学受講者数	人	570	585	600

2 教育・文化

(2) 歴史に学び多様な文化を継ぐまちをつくる

① 現況・動向

- 森町には、国の重要文化財である「友田家」や「遠江森町の舞楽」(小國・天宮・山名神社)をはじめとする数々の指定文化財、また歴史を感じさせる町並みなど多彩で優れた歴史的遺産や伝統的な行事が数多く残されています。これらを地域の自然・歴史・風土に培われた、生活の中に息づく文化として引き続き継承し、活用していくことが求められています。
- 健康志向の高まりが人々のスポーツへの関心を広げていることから、競技スポーツの振興のみならず、町民が気軽に楽しめるレクリエーションスポーツの普及を図るとともに、生涯にわたってスポーツに親しむことができる環境づくりが求められます。
- より広い美術や演劇、伝統芸能など芸術文化の一層の振興を図るため、様々な芸術や文化に親しむ機会の提供や文化団体の育成に努める必要があります。

●関連計画

森町教育大綱
森の教育

～先人に学びみんなで育むまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) 文化活動の振興 <ul style="list-style-type: none"> ・森町の自然・歴史・文化によって醸成・継承されてきた有形・無形の文化財や歴史的景観などの保護・保存・活用に努めるとともに、これらの蓄積をいかにしながら、新たな文化の創造と発展を図ります。 ・地域の人材や文化財所有者、ボランティア活動などとの連携により森町の歴史的・文化的資産を地域で支え、自然や産業も含めた歴史文化をいかしたまちづくりを進めます。 ・町民による自主的な芸術文化活動を進め、文化団体や指導者・文化財伝承者の育成に努めます。 ・文化会館の充実と安定した運営を図ります。 	森町歴史・伝統文化保存会の結成支援 古い町並み及び蔵の利活用と保存の支援 文化財・歴史資料等のデジタル化 国指定文化財等の調査研究と公開 重要な歴史資料の調査及び保存 町民の文化活動支援 文化会館自主事業の広域的な情報提供 文化会館の自主事業による文化芸術の振興 文化会館施設の長寿命化対策
2) スポーツの振興 <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ施設の整備や学校施設の開放などを通じて、スポーツの場の提供を推進します。 ・町民の幅広いニーズに対応した生涯スポーツの普及を図ります。 ・各種スポーツ大会の開催支援などを通じて、森町の特色をいかしたスポーツ文化の醸成に努めます。 ・各種スポーツ団体や指導者の育成を通じて、レクリエーションスポーツから競技スポーツまで幅広く楽しめる森町らしいスポーツコミュニティづくりを促進します。 ・総合体育館の利活用を促進する事業を進めます。 	町民それぞれに応じたスポーツの普及 スポーツ推進委員の技術の向上 各種スポーツ団体等の指導者の育成 スポーツ施設の整備

●目標指標	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
指定文化財件数	件	105	125	130
森町文化会館の利用者数	人	76,500	77,500	78,000
森町総合体育館利用者数	人	45,400	45,860	46,310
各種スポーツ大会、スポーツ教室等への参加人数	人	3,560	3,595	3,720

基本の柱3 活力・情報発信

交流が盛んでにぎわうまち

- (1) 調和のとれた居心地のよいまちをつくる 19
- (2) 町の魅力や情報を広く効果的に発信するまちをつくる 21
- (3) 地域の宝・資源を最大限にいかしたまちをつくる 23

3 活力・情報発信

(1) 調和のとれた居心地のよいまちをつくる

① 現況・動向

- 森町は、北部の森林や南部の田園地帯、そして中央を流れる太田川など、豊かで美しい自然環境を有しており、これらを町民の貴重な財産として、今後も継承していくことが求められます。
- 町の活力を維持していくため、地域の特性に応じた計画的で適切な土地利用を進めていくことが求められます。
- 地方創生の推進、人口減少化対策として、積極的に住宅用地の確保を図る必要が求められています。
- 新東名高速道路の開通による交通アクセスの飛躍的な向上に対応するため、新東名周辺の整備促進が求められています。また、安定した産業基盤の確立と地域の活性化のため、新東名高速道路森掛川インターチェンジと東名高速道路袋井インターチェンジを結ぶ都市計画道路森町袋井インター通り線の整備促進が求められます。
- 人口減少、高齢化社会に対応するため、国の「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」に基づくまちづくりが求められます。

●関連計画

森町都市計画マスタープラン
森町地域住宅計画
国土利用計画森町計画（第二次）
森町営住宅長寿命化計画

～交流が盛んでにぎわうまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) 計画的な土地利用の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・各種土地利用の適切な進行管理を行うとともに、新東名森掛川インターチェンジ、遠州森町スマートインターチェンジ及び既存工業地域の周辺については、地域の意向を踏まえ、農業と商工業のバランスを図りながら、より効果的な土地利用を進めます。 ・土地の有効利用を促進するとともに、優良な住宅地を供給するため、民間活力を含めた住宅用地の確保を図ります。 ・中心市街地の基盤整備を図るとともに、公園の整備、宅地開発の適正な誘導などにより良好な住環境を整えます。 ・北部の森林及び市街地周辺の緑地については、保全を基本に、自然とのふれあいなどの活用に努めます。 ・南部の田園地域は、優良農地として整備・保全を進めます。また、北部太田川沿い及び西部丘陵地は、観光・レクリエーションの利用を図ります。 	新東名森掛川 I C 周辺整備の方針検討 空家等対策計画の策定 地域住宅計画見直し 森町住宅利子補給制度の拡充 地籍調査事業 わかりやすい案内標識の設置 景観行政団体への移行と景観計画及び 景観条例の検討 立地適正化計画の策定 旧周智高校の跡地活用

●目標指標	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
新東名インターチェンジ通行量 (森掛川インターチェンジ、遠州森町スマートインターチェンジ)	台/日	3,845	5,000	5,000

3 活力・情報発信

(2) 町の魅力や情報を広く効果的に発信するまちをつくる

① 現況・動向

- スマートフォンやタブレットなど、情報通信機器の発展により、公衆無線 LAN (Wi-Fi) 設置が求められています。また、マイナンバーカードを活用した住民サービスの向上と地域活性化策の積極的な検討が求められています。
- ふるさと納税制度の活用による、町への寄附促進と地場産品などのPR、販売促進及び地元企業の活性化などを図ってきており、さらなる相乗効果の向上のため、返礼品の拡充とともに、町のすばらしさを全国に発信し、森町ファンを増やしていくことが必要です。
- 富士山静岡空港の開港や新東名高速道路の開通と森町内のインターチェンジ、パーキングエリアの立地による、静岡県内外からのアクセス向上、交流施設が整備されたことをふまえて、町への交流人口拡大を見据えた、戦略的な情報発信による「森町」の一層のPRが必要です。
- 全国的に空き家等の対策が深刻な問題となっている中、本町においても空き家等が増加傾向にあるため、適切な管理や利活用が求められています。

～交流が盛んでにぎわうまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) 情報通信基盤の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・ 公衆無線 LAN (Wi-Fi) を整備し、住民サービスの電子化を促進するほか、災害時等の通信手段の確保に寄与します。 ・ マイナンバーカードの利用基盤の整備（コンビニ交付、図書館カード利用など）を推進します。 	公共施設無線 LAN (Wi-Fi) 設置事業 マイナンバーカード利活用等推進事業 コンビニ納付の実施
2) 戦略的な PR 実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 森町の特産品の PR の一環として、ふるさと納税に対する返礼品の充実をさらに進めていきます。 ・ 町への移住交流人口の拡大を目指すとともに、その受け入れ体制の充実を図ります。 ・ 町の魅力を町内外に積極的かつ効果的に発信するため、町民や企業との連携を図り、官民一体となった SNS を活用するとともに、女性や若い世代の視点を取り入れた情報発信を推進します。 	ふるさと納税制度の活用 地域おこし協力隊の活動事業 トップセールスの推進 空き家情報の発信 お試し移住の実施

● 目標指標	単位	現状値	目標値	
			5 年後	10 年後
公共施設無線 LAN (Wi-Fi) スポットの設置数	箇所	5	11	17
遠州の小京都森町ファンクラブ会員数	人	85	300	500

3 活力・情報発信

(3) 地域の宝・資源を最大限にいかしたまちをつくる

① 現況・動向

- 森町は、三方を緑の山々に囲まれ、清流太田川が町の中央を流れる風光明媚な地で「遠州の小京都」として親しまれており、その由縁は近代の森町の情景を詠んだ「森町之賦」によるものです。2012(平成 24)年 4 月新東名高速道路の開通と森掛川インターチェンジの開設、2014(平成 26)年 3 月遠州森町スマートインターチェンジ開通への期待から、森町を全国へ発信するため 2012(平成 24)年 11 月に全国京都会議に加盟しました。このような「遠州の小京都」の理解を深めるとともに「遠州の小京都」にふさわしいまちづくりを進め、「遠州の小京都・森町」を広く P R し、町の活性化を図ることが求められています。
- 町域では、太田川をはじめとする豊かな自然や神社仏閣などの貴重な歴史的文化資産、多彩な特産物、森山焼、アクティ森などの観光資源に恵まれており、観光交流客数は年間 110 万人を超えていますが、宿泊客数は 6 千人弱程度であり、日帰り型・通過型の観光地となっています。近年では、観光レクリエーション客数は増加傾向にありますが、宿泊客数は減少傾向にあります。
- 豊かな自然を背景に、お茶をはじめ、レタス、水稻、スイートコーン、メロン、治郎柿といった多彩な産物に恵まれており、これらの生産量や品質の保持に努めつつ、新たな需要喚起に向けた、新たな作物の導入など、現状に留まらず、より積極的な展開を図っていく必要があります。
- 人々の余暇時間の増大やレジャー志向の高まりの中で、観光産業は、農林業や商業など様々な分野と関連する地域経済における基幹産業の一つとして期待されています。観光ニーズの多様化と旅行形態の変化に合わせた、森町らしい新しい観光のあり方を検討するとともに、多彩な交流を通じた町の活性化が求められています。
- 富士山静岡空港周辺市町による広域連携での観光振興を促進し、国内外からの交流を通じた町の活性化が求められています。

●関連計画

遠州の小京都まちづくり基本構想・基本計画

～交流が盛んでにぎわうまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) 森町ブランドの育成・発信 <ul style="list-style-type: none"> ・新品種の導入や加工品への展開などにより、森町ブランドとしての物品の開発を促進するとともに新たな販路の開拓を図ります。 	新たな特産品開発
2) 地域資源をいかした観光の振興 <ul style="list-style-type: none"> ・「遠州の小京都」としての由縁を大切に育てつつ、文化財や伝統芸能、豊かな自然とのふれあい、お茶やスイーツコーン、和菓子、森山焼といった特産品など、森町のもつ地域資源を組み合わせた観光の振興を図り、さらなる誘客を図ります。また、まちなかの回遊性を高め、観光客が長時間滞在するための取組を図ります。 ・観光協会や観光施設などとの協力・連携により、集客の増加と施設の充実を図ります。 ・観光関連団体や観光ボランティアの育成・支援などにより、町民一人ひとりが訪れる人を歓迎するおもてなしの心にあふれたまちづくりを進めます。 	「遠州の小京都」をいかした観光の振興 観光施設を結んだ観光ルートづくり 茶文化・情報発信 観光協会との連携強化 森町体験の里アクティ森の健全経営 観光ボランティアの育成と支援
3) 多様な観光形態の創出 <ul style="list-style-type: none"> ・関係団体や地域との連携の強化、受け入れ体制の整備を進め、歴史・文化や特産品など、森町の特色をいかしたグリーン・ツーリズムを推進するとともに、空き家や遊休農地などの活用により、都市部との交流を促進します。 ・漁業協同組合などとの連携を通じて、アユ釣りなどの漁業を観光資源として活用します。 ・ICTを活用した観光情報の発信と、森町ならではの新しい観光形態を創出し、観光客の誘致と日帰り型・通過型から体験型・滞在型の観光への転換を促進します。また、インバウンドを意識した観光・交流を推進します。 	グリーン・ツーリズム事業の展開 ハイキングコースの利活用 観光漁業の推進 ICTを活用した観光の振興 観光産業の振興

●目標指標	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
観光交流客数（年間観光入込客数）	千人	1,123	1,203	1,253

基本の柱 4 産業振興

活気あふれる産業のまち

- (1) 活力が持続できるまちをつくる..... 27
- (2) 新たな活力が生まれるまちをつくる 29

4 産業振興

(1) 活力が持続できるまちをつくる

① 現況・動向

- 近年は農業従事者の高齢化や担い手不足、小規模、急傾斜地農地の遊休化・荒廃化が進み、農家数や農業産出額なども減少傾向にあります。担い手の育成や規模の拡大、効率化を進め、安定した経営基盤を確立するとともに、国土保全の観点からも農地のもつ多面的機能を維持・発展させていく必要があります。
- 森町は、上級茶の産地として知られており、お茶の町として急須でお茶を飲む町づくりを進めていますが、近年、茶価は低迷しており、価格の安定や高付加価値化に向けた取組が求められています。
- 森林は町の全面積の約 70%を占めていますが、国内木材需要の低下、林業従事者の高齢化や後継者不足、不在所有者の山林面積の増加などにより林業活動が低迷しています。森林のもつ公益性や多面的な機能を維持する観点からも、計画的な森林の整備や林業の振興が求められます。
- 商業面では、中心市街地における商店街の空洞化や衰退が懸念され、町民の日常生活を支える基盤としての商業の維持とともに、活性化への新たな展開が求められます。
- 工業面では、既存中小企業の経営環境は依然厳しい状況が続いていることから、引き続き経営基盤を強化していくとともに、新たに創業、起業する人や新製品の開発、新規事業の立ち上げをしようとする企業を支援することが求められます。

●関連計画

森町農業振興地域整備計画

森町森林整備計画

～活気あふれる産業のまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) 農業の振興 <ul style="list-style-type: none"> ・農業後継者や認定農業者、ビジネス経営体の育成・支援を進めるとともに、農地の集積集約を図り、効率的で安定した農業経営基盤を確立していきます。 ・茶業振興については、品質の向上や茶園の共同管理の推進、加工用等ニーズに合った低コスト製造技術の普及、高付加価値化の推進、輸出に向けた生産体制の確立を図ります。 	中核的担い手となる認定農業者の育成 水田農業対策事業 茶業振興事業 農業後継者育成事業 土地基盤整備事業 多面的機能支払交付金事業の推進 食農教育の推進 遊休農地の有効利用の促進 国営かんがい排水事業（天竜川下流二期地区） 有害鳥獣被害防止対策事業
2) 林業の振興 <ul style="list-style-type: none"> ・計画的な森林整備を進めるとともに、新技術・機械の導入や林道・作業道の整備などによる、低コストで生産性の高い林業を推進します。 ・森林組合などとの連携により、新たな人材の育成・確保を図るとともに、森林認証を活用し、地域材の利用拡大を推進します。 	低コスト林業の推進 森林組合への支援 「森林認証」ブランドの活用と地域材の利用推進
3) 商業の振興 <ul style="list-style-type: none"> ・商工団体などの関係機関との連携により、経営相談や地場産業の経営基盤、経営体質の強化を支援します。 ・特産品については、地域ブランドの確立を推進し、関係団体への支援を通じて販売を促進します。 	商工会・産業祭支援事業 特産品のブランドをいかした販売促進
4) 工業の振興 <ul style="list-style-type: none"> ・産業支援機関等と連携し、各種事業を通じて地域企業の経営基盤強化と地域産業の振興を図ります。 	中小企業向け融資制度による支援 地域産業支援事業

●目標指標	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
認定農業者及び認定新規就農者数	人	67	65	60
木材生産量	m ³	3,500	5,000	7,000
町内事業所数	社	894	900	900

4 産業振興

(2) 新たな活力が生まれるまちをつくる

① 現況・動向

●新東名森掛川インターチェンジ及び遠州森町スマートインターチェンジの立地をいかし、今後も計画的な周辺整備を進めるとともに、雇用創出の観点からも、積極的な企業誘致活動の展開が求められます。

●特に、新しい産業分野や先端技術を持った企業の誘致など、地域産業の活性化に積極的に取り組むことが求められます。

●関連計画

内陸のフロンティアを拓く取組（森町総合特区事業推進計画）

～活気あふれる産業のまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) 企業の誘致・雇用の確保 <ul style="list-style-type: none"> 合理的・計画的な産業基盤の整備や土地利用の見直しに加え、企業立地推進のための優遇制度の検討や未利用地の利用促進などにより、企業の立地環境の整備と、高い成長力を持った企業の誘致を促進します。 新東名沿線の市町とも連携した内陸のフロンティアを拓く取組による企業立地環境の整備と企業誘致活動の強化を図ります。 優良企業の誘致及び既存企業の支援などを通じ、働く場の確保と就業機会の拡大を推進します。 町内への企業進出を促進するため、企業と行政が連携や協働をすることで、双方にメリットが発揮される Win-Win の関係構築に努めます。 	内陸フロンティアの推進 遊休土地情報収集 企業ニーズに対応した戦略的な企業誘致施策の推進 企業誘致にあわせた雇用の確保

●目標指標	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
企業立地件数	件	3	7	10

基本の柱5 安心・安全

いつまでも暮らせるやすらぎのまち

- (1) 安全・快適に暮らせるまちをつくる 33
- (2) 災害に強い、地域防災力の高いまちをつくる..... 35
- (3) コミュニティ豊かな地域活動が活発なまちをつくる..... 37

5 安心・安全

(1) 安全・快適に暮らせるまちをつくる

① 現況・動向

- 森町耐震改修促進計画に基づき、平成15年度より木造住宅の耐震化の推進に取り組んでおり、簡易耐震診断627戸、補強計画策定78戸、耐震補強工事66戸を実施しています。(H28.11末現在)
- 交通量の増加に伴う総合的な交通安全対策を推進するため、5年に一度、森町交通安全計画を策定し、交通事故の多発している箇所、発生するおそれのある箇所へのカーブミラー・ガードレール等の設置や既存交通安全施設の維持管理を図っています。
- 町内での夜間の犯罪を防ぐため町内会が設置する防犯灯に対する補助を行っています。
- 新東名高速道路について、2012(平成24)年4月14日御殿場JCT～浜松いなさJCT間の静岡県区間が開通。2016(平成28)年2月13日浜松いなさJCT～豊田東JCT間の愛知県区間が開通し、観光分野・産業分野における集客効果のみならず緊急輸送路としての機能も充実しています。
- 町内には、鉄道(天竜浜名湖鉄道)、バス(秋葉バス、遠鉄バス、自主運行バス、患者輸送バス)、タクシーの公共交通があります。今後、高齢化が進む中、高齢者の移動手段の確保対策が求められていることから、地域の実情に合った公共交通のあり方を、町民、事業者、行政等が連携し、検討していくことが必要です。
- 町民生活や産業活動に欠くことのできないライフライン、オープンスペース等の維持・整備とともに、激甚化する自然災害への対応も視野に入れた公共施設の維持が求められます。

●関連計画

森町都市計画マスタープラン
森町交通安全計画
森町地域防災計画
森町耐震改修促進計画
森町橋梁長寿命化修繕計画
森町水道事業基本計画
森町公共下水道事業計画
生活排水処理基本計画(森町一般廃棄物処理基本計画)

～いつまでも暮らせるやすらぎのまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) 交通安全・防犯対策の充実 <ul style="list-style-type: none"> カーブミラーやガードレールなどの交通安全施設のさらなる整備や、関係機関との連携により、交通環境の状況に即した総合的な交通安全対策を進めます。 地域内の防犯組織の強化とともに、住宅地内等での防犯灯の設置を進めます。 	交通安全施設整備事業 交通安全運動の推進 防犯灯の設置事業 袋井警察署管内防犯協会との連携 交通安全組織の充実強化 女性交通安全推進員の育成
2) 道路・交通ネットワークの整備 <ul style="list-style-type: none"> 新東名高速道路森掛川インターチェンジや遠州森町スマートインターチェンジなどとの接続性を考慮し、道路交通の変化と交通量に応じた道路改良や交通安全施設等の整備を進めます。 町民ニーズに即した地域公共交通の充実を図るとともに、天竜浜名湖鉄道や路線バス、自主運行バスなどの利便性の向上と効率的な運行を促進します。 橋梁等の道路施設の長寿命化を促進します。 	都市計画道路の整備 町道整備事業 天竜浜名湖鉄道経営助成事業 バスの新しい運行体系等の整備 公共施設の耐震化・長寿命化
3) 生活基盤の整備 <ul style="list-style-type: none"> 水道施設の整備、更新により、施設の適正な管理とともに、水道事業の経営健全化に努めます。 公共下水道の整備推進とともに、公共下水道計画区域外の地域は、合併処理浄化槽を基本とした污水处理対策を進めます。 住民のレクリエーションやコミュニティの場として、子供から高齢者まで（特に子育て世代）快適に利用できる公園や緑地の整備を図ります。 災害時にも安全な公共スペースを確保します。 市街地の大きな構成要素である「住宅」の耐震化を促進します。 	水道施設整備事業 公共下水道整備事業 浄化槽設置整備事業 生活に身近な公園・緑地の整備 木造住宅の耐震化促進

●目標指標	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
住宅の耐震化率	%	74.7	95.0	100
水道石綿管布設替率	%	80.0	90.0	100
公共下水道接続率	%	56.0	58.0	60.0

5 安心・安全

(2) 災害に強い、地域防災力の高いまちをつくる

① 現況・動向

- 予想される巨大地震や頻発する自然災害等に対し、防災減災を図るため、森町では防災資機材の充実や自主防災組織の強化育成に取り組んできました。今後、移り変わる自然的条件や社会的条件により予想される災害に対応できるよう、引き続き防災施設の整備更新を進めるとともに、防災意識の一層の啓発・高揚に努める必要があります。
- 森町の消防は、常設消防署と森町消防団が担っていますが、若年世代の減少による団員の確保や町外勤務者の増加による緊急時の対応が懸念されています。年々高まる消防・救急業務への需要に対応するため、地域の消防力の強化と救急防災体制の充実が求められます。
- 総合的な防災体制の確立のため、毎年地域防災計画を更新しています。

●関連計画

森町地域防災計画

～いつまでも暮らせるやすらぎのまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) 地域防災力の強化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 自助共助の強化に向けた防災対策の普及に努め、住民・学校・行政が一体となって、地域防災力の強化を図ります。 ・ より実践的な防災訓練を行い、防災意識の高揚を図るとともに、自主防災組織の強化育成に取り組みます。 ・ 消防施設の整備充実など消防力の強化を図るとともに、自主防災活動と連携した消防団活動を展開します。 ・ 女性の視点を踏まえた安心安全に関するきめ細やかな防災施策に取り組みます。 ・ 情報発信の強化のため、官民連携も視野に入れる中で、情報伝達の多様化を促進するとともに、効果的な活用を図ります。 	自主防災活動の充実とリーダーの育成 防災訓練の実施 防災施設、資機材の整備 一斉メール配信システム構築事業 防火思想（等）の普及 消防団の充実 地域防災計画の整備 消防施設の整備充実 常備消防施設の整備充実

●目標指標	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
地域防災訓練に参加した市民の割合	%	27.0	30.0	35.0

5 安心・安全

(3) コミュニティ豊かな地域活動が活発なまちをつくる

① 現況・動向

●少子高齢化、人口減少社会の到来とともに、社会経済事情の変化、生活スタイルの多様化などにより、行政がこれまで担ってきた様々な住民サービスの継続への不安も顕在化してきており、今後、地域や住民一人ひとりが、自らのまちづくりに対して担うべき役割とその実践が求められる状況にあります。

●町民ニーズが多様化、個別化する中で、より豊かな生活を築いていくためには、町内会等の地縁系団体、NPO等の住民活動団体、行政等が目的意識を共有して、対等の関係で協働するという視点が引き続き必要となっています。

～いつまでも暮らせるやすらぎのまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) コミュニティづくりの推進 <ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティ活動を促進することにより、地域社会の発展と町民の意識の高揚を図り、協働によるまちづくりを発展、前進させるための体制づくりを進めます。また、活動に積極的に参画する人材や活動のリーダーとなる人材を育成することを推進します。 	協働のまちづくり推進事業の見直し 協働に関する意識啓発 協働のための情報共有、公開の促進 協働のための交流の促進

●目標指標	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
協働のまちづくり事業実施団体数	団体	15	18	20

基本の柱6 自然環境

豊かな自然があふれるまち

- (1) 緑豊かな自然あふれるまちをつくる 41
- (2) 自然環境と共存するまちをつくる 43

6 自然環境

(1) 緑豊かな自然あふれるまちをつくる

① 現況・動向

●森町は、三方を森林に囲まれ、北部の山林を源流とする太田川が中央を流れ、下流の南部地域には田園地帯が広がり、豊かな自然の恵みを受けて発展してきました。現在も身近な場所に緑地や水辺、田園があり、美しい景観を形成しています。こうした自然を育みながら、町民にとっても訪れる人にとっても快適で、やすらぎとうるおいあふれるまちづくりが求められます。

●都市化の進展による農地の減少や山林の荒廃・開発などにより、豊かな緑が減少する傾向がみられます。町民や企業などとともにまちづくりを推進し、周辺環境と調和のとれた景観を形成するためのルールづくりを検討する必要があります。また、自然の大切さを認識するため、自然を体験し、学習できる機会を設けるとともに、そのリーダーづくりが求められます。

●森林は災害を防止する緑のダムとしての役割があることから、森林の育成・保護に努め、水源涵養機能をはじめとする多面的機能を高めながら、国土の保全を図っていくとともに、河川については、安全で快適な居住空間を確保する治水・利水だけでなく、気軽に自然とふれあう場として、親しみやすい水辺空間を創出することが求められます。

●関連計画

森町森林整備計画

～豊かな自然があふれるまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) 生活に身近な緑の保全と形成 <ul style="list-style-type: none"> 公園などの公共空間においては、町民や地域の協力を得ながら、花や樹木による豊かな緑地スペースの確保に努めます。 住宅地においては、景観形成に対する意識啓発を図り、生け垣づくりや土地利用協定など町民の自主的な活動を支援します。 	グリーンバンク事業の推進 町民や企業との協働による自然景観の保全活動 町民による緑化・植林等への支援
2) 森林の保全 <ul style="list-style-type: none"> 間伐や林道整備などの計画的な森林整備の推進や林業の振興、保安林の適正な管理など、治山の推進により森林の適切な保全を進めます。 町民参加によるイベントなどを通じて、森林のもつ多面的な機能や林業の大切さ、森林整備の必要性などに関する理解を促進します。 	森林整備事業 間伐対策事業 林道・作業道の整備 町民の森の維持管理
3) 河川の整備 <ul style="list-style-type: none"> 川のもつ治水・利水機能を考慮しつつ、周辺環境や景観に配慮した河川整備を推進するとともに、水質の浄化や河川美化運動などにより良好な河川環境を保全します。 身近な水辺空間として、人々がふれあい、癒しの場となるような緑化や親水施設の整備を図ります。 	河川改修事業 太田川と親しむ空間の整備

●目標指標	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
森林の間伐実施面積	ha	127	150	180

6 自然環境

(2) 自然環境と共存するまちをつくる

① 現況・動向

- 地球温暖化やオゾン層の破壊、熱帯林の減少、生物多様性の喪失、酸性雨など地球環境問題は極めて深刻化し、世界的規模での早急な対策が求められています。
- 従来から町民参加により進められている環境美化運動を基本としながら、幅広い環境保全活動に町民・企業・行政が一体となって取り組む必要があります。
- 町民のごみ減量に対する意識は着実に根付いています。今後はごみを出さない・つukらないといった次の段階へと進めていく必要があります。

●関連計画

森町一般廃棄物処理基本計画

～豊かな自然があふれるまち～

② 施策の方向	＜主な事業＞
1) 資源循環と自然エネルギーの活用 <ul style="list-style-type: none"> ・町民・企業・行政が互いに協力し、引き続きリデュース（Reduce：廃棄物の発生抑制）・リユース（Reuse：製品・部品の再利用）・リサイクル（Recycle：再生資源の利用）といった3R（スリーアール）を進めます。 ・広域的な連携のもと、ごみ焼却場及び最終処分場を活用し、一般廃棄物の適正な処理に努めます。 ・生ごみや家畜排せつ物、木くず、もみがらなどのバイオマス資源の循環利用を促進し、地球環境に配慮した循環型社会を形成していきます。 	循環型社会づくり推進事業 ごみ収集運搬及び処理事業 ごみ焼却場・最終処分場の運営 バイオマス資源の活用推進 地球温暖化防止対策事業
2) 環境保全活動の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・環境学習や広報活動を通じて公害防止意識の高揚を図るとともに、生活環境の保全監視体制を充実するなど、まちぐるみでの環境保全活動を進めます。 ・町民や企業との協働により、太田川をはじめ町内の清掃活動や美化キャンペーンなどを展開し、地域の環境美化を促します。 	環境美化パトロール事業 町民や企業との協働による環境美化活動の促進

●目標指標	単位	現状値	目標値	
			5年後	10年後
1人当たりの家庭ごみ年間排出量	kg	167	159	150

計画推進のために

第9次森町総合計画（基本構想、基本計画）の推進のため、以下の方策（取組や仕組みづくり）を設定します。

（１）健全な行財政運営の推進

全般的な行財政運営にあたって、民間企業等での経営手法を参考とし、より効果の高い施策・事業の展開を図るため、施策・事業の計画策定(Plan)、推進(Do)、評価(Check)、見直し・改善(Action)のPDCAサイクルに基づき、各施策・事業に関する新設、拡充、縮小、廃止などの方向性を定めるものとします。

また、本計画の推進状況について、積極的に情報発信をするとともに、事業の進捗及び効果検証は町民や外部有識者の参画を得て行います。

町内産業の活性化を通じた税収増を図っていくとともに、引き続き町税の徴収率向上や受益者負担を踏まえた使用料・手数料などの適正化、町有財産の有効活用などにより、安定した財源の確保に努めます。また、大規模災害の発生等、「想定外」に際しての行政運営継続のあり方を検討します。

組織の合理化・適正化を進め、職員の自発的な提案が町政に反映され、やりがいをもって仕事に取り組める仕組みづくりや町民ニーズに迅速に対応できる組織編成に努めます。さらに、地域の実情に応じた自主的な政策立案や施策を展開するよう、職員の能力向上に向けた研修等の充実を図ります。

民間のもつ能力や資本の活用促進や、町民参加による開かれた行政運営を図るため、情報の共有化や参加しやすい環境づくりを進めるとともに、町内会や各種団体、地域などとの機能分担や連携を強化していきます。

（取組の方向）

行財政運営システムの改革

成果重視の行財政運営

第4次森町行財政改革大綱の策定

第3次行財政改革実施計画の策定

財政の健全化

森町業務継続計画（BCP）の策定

組織の改革と職員能力の向上

公共施設マネジメントの推進

(2) 広域連携・交流の推進

消防・衛生・医療・福祉等に関わる分野で展開している周辺市町との共同事業について、今後も連携を強化し、役割分担と協力関係を構築していきます。

住民サービスの向上を図るため、公共施設の相互利用や公共サービスの共通化などをさらに発展・充実させ、効率的で効果的な広域行政を推進します。

周辺市町との住民相互の交流と連携を促進するとともに、住民主体の広域的なまちづくりへの支援を行います。

森町を訪れる人との出会いと交流の機会を創出するとともに、町の特徴をいかした産業、歴史・文化資源やスポーツなどを通じて他市町の住民との交流を促進します。また、友好町である北海道森町との交流や情報交換を引き続き進めていきます。

また、「新東名高速道路の開通による利便性の向上」や「遠州の小京都のまちづくり」をいかした広域連携の推進を図るとともに、移住・定住等の交流促進を図ります。

(取組の方向)

周辺自治体や圏域を超えた広域連携の推進

新たな広域連携の推進

国内外の地域間交流の推進

(3) 協働のまちづくりの推進

町民ニーズが多様化、個別化する中で、より豊かな生活を築いていくためには、町内会等の地縁系団体、NPO等の住民活動団体、行政等が目的意識を共有して、対等の関係で協働するという視点がより必要となってきました。

第8次森町総合計画においても、協働のまちづくりを推進してきましたが、今後も引き続き、協働に関する情報の提供等、様々な環境整備に努めていくとともに、より積極的に取組を進める必要があります。

協働による取組をより一層推進することにより、多様な主体が新しい公共の担い手として、より一体となったまちづくりを推進していきます。

現在、活動をしている協働まちづくり推進事業実施団体やボランティア団体、NPO法人に対し、継続して活動を展開していくための団体支援や育成を実施していきます。

(取組の方向)

協働に関する情報の提供等の充実

協働型行政体制の構築

協働まちづくり推進事業の創意工夫

各種団体への支援、育成

(4) 情報通信技術(ICT)の活用推進

人口減少や少子高齢社会が進行し、経済成長等もこれまで以上の上昇は見込みにくい中、開発が進む情報通信技術(ICT)に着目し、種々の地域活動等の活性化や課題の解決といった、より生活に身近な行政サービスの展開へのICTのさらなる活用を進めていきます。

また、多様化する町民ニーズに対応するため、時代の進歩に対応したICTを積極的に利活用して、効果的な情報発信をします。

その際には、女性や若い世代からの意見やアイデアを聴く機会の拡大に努めます。

併せて、情報を安全、迅速、確実に提供できる手段を構築するとともに、ICTを利活用したまちづくりを目指します。

(取組の方向)

ICT利活用のあり方の検討、推進

ICT利活用のための基盤整備

地域産学官民(企業・教育機関・県・市町・各種関係団体等)の連携・協働